

名古屋外国語大学世界教養学科主催 講演会

混合体としての〈アメリカス〉へ

—『ハーフ・ブリード』刊行に寄せて

越境者たち、混血たちの〈アメリカ〉は、いまだに未知の大地です。それを〈アメリカス〉と複数形で呼び直してみたとき、グローバリゼーションの見かけのもとでの均質化したイメージは消え去ります。とりわけ国境の川や壁を越えて歴史的に往き来してきたメキシコ人たちの側から眺めたとき、〈アメリカス〉は**特別の豊かさ**と**文化的陰影**をもって私たちに真の姿を開示します。そのような豊饒な混合体を前に、狭量な「アメリカ国家」はいま何を**抑圧**し、**排除**しようとしているのでしょうか？

灼熱の太陽が降りそそぐ高原の民と、バラ色にかがやく砂漠の民のあいだを往還してきた人類学者が、35年前のメキシコとの邂逅に始まる半自伝的著作『ハーフ・ブリード』（河出書房新社）の刊行を機に、混合体としての世界の未来の可能性を熱く語ります。

入場無料
予約不要

2017年 10月11日(水) 14:00~16:30 (13:50 開場)

会場 名古屋外国語大学 511 教室

対象 どなたでもご自由に参加できます

講師 今福 龍太氏

主催 名古屋外国語大学世界教養学科

(文化人類学者・東京外国語大学大学院教授)

共催 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター WFLAC

Profile 今福 龍太 いまふくりゅうた

文化人類学者・批評家。東京外国語大学大学院教授。1982年よりメキシコ・キューバ・アメリカ南部などで広範なフィールドワークを行う。遊動型の野外学舎「奄美自由大学」を2002年から主宰。現在サンパウロ・カトリック大学記号学・メディア研究科大学院でも随時セミナーを開く。2017年に『ヘンリー・ソロー 野生の学舎』（みすず書房）で第68回読売文学賞受賞。他の著書に『ミニマ・グラシア』『薄墨色の文法』『ジェロニモたちの方舟』（以上岩波書店）『レヴィーストロース 夜と音楽』（みすず書房）『わたしたちは難破者である』（河出書房新社）ほか多数。水声社より、主著『クレオール主義』『群島-世界論』を含む著作コレクション（バルティータ）全5巻が現在刊行中。近刊予定に『ブラジル映画史講義』（現代企画室）、『原-写真論』（赤々舎）など。

『ハーフ・ブリード』

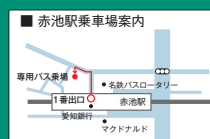
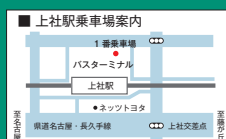
純粋なものがなにかによって汚染され、混濁するのではない。混血とはいま、ここにおける一つの創世の瞬間に与えられた自然条件である。

それは交わりの記憶を、混成体への信頼を（……）そのまま、あるがままにひきうける、包容力ある意思のことなのである。その真実が排外主義の根を断ち、純血主義の幻想に穴を穿ち、そこに深緑色の怪しくも美しい未知の理解の水をゆっくりと満たしてゆく……（『あとがき』より）



■本校へのアクセスについて

名古屋市営地下鉄 東山線「上社」駅および鶴舞線・名鉄豊田線「赤池」駅より本学専用バスを運行しており無料でご利用いただけます。本学までの所要時間は、約15分です。ご乗車の際、運転手に本講演会にご参加される旨をお伝えください。また、お車の来校はご遠慮ください。詳しくは大学HPでご確認ください。



■お問合せ

電話での本学へのお問い合わせは
(0561) 75-1759 (直通) まで

名古屋外国語大学 世界教養学科
470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57